

伝えたい
栗石の
食と暮らし

しずくいの 行事と行事食



天然の恵みに感謝し、神仏をうやまう心。
折々の行事や行事食は、日々の暮らしに
とけ込んで、脈々と息づいてきた。
そして今、もてなしの心として伝えられる。

編集／栗石町

協力／栗石町農村生活研究連絡協議会

伝えたい雫石の食と暮らし

近年、本町においても核家族の家庭が増加傾向にあり、昔からの行事とか行事食を体験する機会が少なくなってきました。

この度、昔から雫石に伝わる行事や行事食を通して、次世代の方々に雫石の昔の農村生活の様子を伝えると共に、今後の食育や地場産品の育成に役立てようと、雫石町農村生活研究連絡協議会の皆さんに調査をお願いし「伝えたい雫石の食と暮らし・しずくいしの行事と行事食」として編集発行することとなりました。

「温故知新」故きを温ねて新しきを知るとのことわざがありますが、本書もことわざのとおり、この中から新しい可能性が拓かれるとともに、雫石型食文化やお重文化として、PTA 活動、地域公民館活動、世代間交流等で活用され、キラリ輝くしずくいしの未来に少しでも参考になることを願っております。結びに取材にご協力いただいた皆様に厚くお礼申し上げます、発行にあたってのあいさつといたします。

平成 21 年 6 月

雫石町長 中屋敷 十

.....

地域の皆様へ感謝

私達は、平成 15 年と 17 年に「しずくいし農村技術の達人名人」第 1 集、第 2 集を発刊しました。

その当時から、地域の先輩の皆様が残してくださった農村にまつわる豊作祈願や年中行事としての行事食の数々を整理し、わが町の行事と行事食として、更には、お重料理として後世に伝承していきたいと思っておりました。

そして、昨年より地域の皆さん、老人クラブの皆さんより聞き取り調査を行い、会員や地域の先輩の方々と一緒に子供の頃、嫁の頃を思い出しながら、忘れかけている行事食を調理し、写真に収め、ようやく出来上がりました。

収集にあたりましては、地域の皆様方に多大な御協力をいただきました。

大変ありがとうございました。

平成 21 年 6 月

雫石町農村生活研究連絡協議会
会長 小林 邦子

1月〈睦月〉：年の初めは身も心も改めて…

1日

若水とり(若水くみ)

いわれ 跡取り息子が年の初めの清らかな水をくみ、その水でご飯を炊いて神様にあげた。「新玉の年の初めの年男むかえて参る谷の若水」と三遍唱え、今年1年の家族の健康や幸福を願った。

大正月(おおしょうがつ)



献立 とろろ飯・黒豆・田づくりごぼう・赤魚煮・柿なます・煮物(ぜんまい・ささげ豆)・青豆塩煮・吸い物(ほたて・こんにゃく・人参)

いわれ とろろは一年間なめらかにすごす為、神棚・床の間・大戸にかけた。豆類はタンパク質の補給とまめに過ごすと言ういわれからも必ず食べた。

2日

御年始



献立 鏡餅・吸い物・柿なます・煮物(ささげ豆・ののば・昆布)

いわれ 木箱みかんや串柿・鏡餅などを土産に本家やお世話になった方々へお礼に歩いた。お土産の鏡餅はワラで編んだ紐で一個ずつ結ばれ、縁側につるされた。春の農作業時分に小昼などにして食べられた。

姑礼



献立 鏡餅

いわれ 新婚の夫婦は鏡餅を土産に妻の実家に挨拶に行った(三年間)。お土産の鏡餅は御年始と同じように、保存食とされ、農繁期等に食された。

1月〈睦月〉

7日



七日正月

献立 のし餅・汁餅・ふきどり餅・干し葉汁

いわれ お供えをさげて、汁餅やふきどり餅にして、もう一度神様にあげた。お餅は最高のごちそうであった。

15日



小正月

献立 お供え・のし餅・ふきどり餅・煮豆(ささげ豆)・きんぴら・柿なます・黒豆・ぜんまい煮物・煮しめ(ほたて・昆布・人参・ごぼう・こんにゃく・しいたけ・乾燥豆腐)

いわれ 仏さんの年取り。農具や鶏・馬にもお供えをあげ、生き物などに感謝した。又一升枥に米を入れ、逆さにしたうすの上のにせ、その中に餅を入れて、米のつき具合で稲作の豊凶をうらなった。

あらね(小正月かざり)



献立 みずき団子・まゆ玉・粟穂・ほによ・はせ・銭

いわれ 豊作祈願。おかざりを常居又は土間、神様のいる部屋に飾った。

粟刈りと言って、この小正月かざりは1月末頃に片づけた。

15日

田植え



いわれ 豊作祈願。夕方に雪の上を田んぼに見たてて、わら・おがら・豆がらをさした。俵の上には水木をさした。「ほうほう」と叫んで田植え終了の合図をした。

なり木責め(いじめ)

いわれ 豊作祈願。子供の行事で田植え終了後にやった。2人1組になって、栗の木や桃の木、柿の木のある場所に行って、大声で「なるがぁ ならねがぁ ならねば ぶった切るぞ」「なります なります うんとなります だから切らねでくれ」と掛け合いをした。

よどり 夜鳥ぼい



献立 四角いのし餅二枚

いわれ 害虫追い出し豊作祈願。子供、青年の行事。わらで「かも」と「うさぎ」を作り、暗くなってから太鼓、手びら鐘・鍋・釜・洗面器等を鳴らしながら「夜鳥ほいほい 朝鳥ほいほい」と叫んで各家々を回った。

1月〈睦月〉

16日

お寺参り



献立 お供え(仏様)

いわれ 先祖の供養。家の者は寺銭を納めにお寺さんへ行った。地獄の釜のふたもあく日で、休みでもあり、餅を持って仏さんを拝みに本家や実家へ歩いた。かくし念仏の感謝の礼を兼ねて、ちしき様にお礼に行った。

30日

三十日正月(みそか)



献立 のし餅・きんぴら・黒豆・煮魚

いわれ 正月の終わり、という意味でごちそうを食べた。

2月〈如月〉：厄をはらって、いつまでも無病息災…

1日

2月正月（年祝い）



献立 鯛・肉いり(肉・ごぼう・こんにゃく・人参・乾燥豆腐・醤油)・一升酒(一升五合酒)・田作り・煮豆(ささげ豆)・煮しめ(ほたて・昆布・しいたけ・人参・ごぼう・こんにゃく)

いわれ この日は年祝いといって数え年が男は42歳・61歳、女は33歳が対象で、午前中にご馳走をつくり、お膳で神様にあげた。女は33歳の女同士でやった。ねこずつと・男は帽子付きマント・女はかくまきで親戚などを挨拶まわりした。

年祝いは地域や家によってやらない処もあった。

3日

節分



献立 煎り大豆

いわれ 家族の病気等厄払い。大豆は鍋で煎った。大豆は前日に一升枡に入れて神様に供えた。豆をまくのはダナ殿か跡取りが「福は内鬼は外 鬼の目玉ぶつつまぬけ」と叫んで家中にまいた。

午の日

はつうま 初馬、二番馬、三番馬



献立 いなりパン

いわれ 五穀豊穡と馬の健康(丈夫)を願う、お稲荷さんにお参りをした。

3月〈弥生〉：女の子が大事にされ、蝶よ、花よと…

3日

3月節句



献立 節句菓子(女の子の顔・梅)・白酒・きりせんしょ

いわれ 女の子の成長を祝いお雛様を飾った。こぬか漬けを樽から初めて取り出して食べる日でもあった。

18日~24日

春彼岸



献立 彼岸団子

いわれ 仏様が家に帰ってくる日。墓参りをし先祖の供養をした。

中日

百万遍



献立 赤飯・天ぷら・ぜんまいの油炒め・煮豆・煮しめ(人参・ごぼう・ふき・しいたけ・こんぶ・乾燥豆腐・油揚げ)・酢の物(きゅうり・菊)・すまし汁

いわれ 本家に集まって先祖の供養をした。今では百万遍は公民館を会場に、地域のコミュニケーションの場となっている。

24日

送り彼岸



献立 団子

いわれ 仏様が団子をころがして極楽に帰る日で、団子を転がるように丸く丸くつくった。

下旬

こえ 堆肥くぼり



献立 ふきどり餅・そばかけ（からし菜漬け汁）

いわれ 農作業の始まりで彼岸の頃の、固雪の時に作業した。そばかけの残りは、鍋ぶたの上でのばし炭火で焼いた。

4月〈卯月〉：いよいよ農繁期が始まる…

8日

しがつようか ●●



献立 だらくれ餅 (小豆・くるみ)

いわれ 休み日で若い人達が出掛けるなどして、楽しむ日でした。

5月〈皐月〉：なんにしても男の子の成長はめでたかった…

5日

5月節句 (端午の節句) ●●



献立 かしわ餅・小豆餅・くるみ餅・よもぎ餅・よもぎのし餅・きな粉 (青豆を石臼で挽いた)

いわれ 無病息災や男の子の成長を願った。邪気払いで菖蒲湯に入り、菖蒲やよもぎを屋根、軒、戸口、窓に挿した。端午礼といって実家によもぎのし餅を持って行った。

馬の休み日 ●●

いわれ この日だけは馬を必ず休ませた。人も休み日だった。

中旬

田がき～しろかき



献立 赤飯・にしんの粕漬け・切干し大根・みずの酢の物・煮付け(ぜんまい・わらび・ふき・たけのこ・舞茸)・煮しめ(人参・ごぼう・しいたけ・こんにゃく・昆布・ふき・油揚げ)・やだら漬け(青豆・人参・昆布・大根)・たくあん漬け

いわれ させとり一人(難しい)・まんが押し一人。一枚の田んぼに五頭位の馬で荒ぐれがき～しろかきをやった。

朝早くから働き重労働だったので、ご馳走をたくさん作り1日に5から6回食べた。馬には煮豆を食べさせた。

下旬

田植え(入梅田植えまなか)

献立 「田がき～しろかき」と同じ

いわれ 仕事は朝早くから始めたので、朝飯からの用意だった。朝飯の他に小昼・お昼と午後の小昼も用意した。この季節の山菜は新鮮で、田植えみずと言って、みずをはじめ山菜は田植え時期の食材によく使われた。神様には小昼・苗・お酒をあげた。

各家々の主人が本家に集まり田植えの日取りを決めた。田植えの結いっことはかまどまきで行なった。

子どもたちも学校が農休みとなり子守りや苗運びを手伝った。

6月〈水無月〉：田植えはまず一段落…

田植え後

さなぶり



献立 ぼた餅・わらびぜんまいの煮付け・手打ちそば・鶏肉汁・漬け物（味噌がっくら・きゅうり・たくあん）

いわれ 田植え後の楽しみでさなぶり休みであった。実家に帰る嫁もいたり、結いっこの仲間同士でご馳走を持ち合い楽しんだりもした。

下旬

馬づくり

献立 煮しめ（人参・ごぼう・しいたけ・こんにゃく・昆布・ふき・油揚げ）・山菜（みず）

いわれ 馬を馬づくり場に集め、爪を切ってから放牧した。馬のお墓を拝んだ後、皆でご苦勞さん会をした。男衆の休みの日でもあった。そして次の日が虫祭りの日だった。

虫祭り・厄病祭り



献立 山菜（ふき・わらび・ぜんまい・しいたけ・たけのこ）・どぶろく・小豆へちよこ団子・豆腐汁・白飯・天ぷら（なす・さつま芋・かぼちゃ・大葉・しいたけ・菊・人参・ごぼう）

いわれ 虫祭り：田のくろを歩いて害虫を追い出した。お膳を準備し一軒から必ず一人（跡取り長男）参加。家族の数と神様の分の団子を茅に挿した。今はお菓子をさげている。

厄病祭り：悪い病気にならない様にと人の病気を払った。鍾馗大臣悪魔払い等紙に書いて歩き、紙は部落のはずれか供養石に集めた。

また女衆の休み日でもあった。

8月〈葉月〉：お盆の先祖供養は大切な行事の一つ…

7日

七日び



献立 赤飯・釜っこ焼き（じゃがいも）・味噌つききゅうり

いわれ 夏まけ予防・体力増強。大人達の休み日で、子供達は七回水遊びをし七回赤飯を食べた。また、石と壁土でかまどを作り、じゃがいもを焼いて食べた。

七日盆・墓掃除



献立 赤飯

いわれ 仏様を拜む日。またこの日までに、どこの家でもお墓の掃除を済ませていた。

13日～14日

お墓参り



献立 赤飯・天ぶら（かぼちゃ・さつまいも・なす・菊・大葉）・煮しめ（人参・ごぼう・油揚げ・こんにゃく・しいたけ・昆布・ふき）・油揚げ汁

いわれ 13～14日にお墓参りし先祖の供養をした。昔は亡くなった時とお盆以外はお墓に近づくな、また、体の弱い人も近づくなと言われていた。13日のご馳走は16日に川に流した。

8月〈葉月〉

16日

お寺参り



献立 赤飯・天ぷら(菊・大葉・かぼちゃ・しいたけ・なす・さつまいも・人参・ごぼう)・煮しめ(人参・ごぼう・油揚げ・こんにゃく・しいたけ・昆布・ふき)・油揚げ汁

いわれ 先祖の供養。家の者は寺銭を納めにお寺さんへ行った。16日のご馳走は20日に川に流した。地獄の釜のふたもあくと言われ、この日だけは悪人も善人も皆、休める日だった。

20日

20日盆(送り盆)



献立 かじか入り茄子炒め

いわれ お盆におりてきた仏様が帰る日で、今度の彼岸に「またおでれや」と言って送った。

また、仏様の供養で、盆踊りがこの日までどこかしこでにぎやかに踊られ、太鼓の音が聞こえていた。

9月〈長月〉：暑さも峠を越し、刈り入れの準備…

上旬～

秋祭り(おぼすな)



献立 餅・刺身・芋の子汁

いわれ 各神社の例大祭で、地域を守ってくれる産土神(うぶすな神・鎮守の神)に感謝をした日。



20～26日

秋彼岸



献立 彼岸団子・おはぎ

いわれ 仏様が家に帰ってくる日。墓参りをし先祖の供養をした。

中日

百万遍



献立 赤飯・天ぷら・ぜんまいの油炒め・煮豆・煮しめ(人参・ごぼう・ふき・しいたけ・こんぶ・乾燥豆腐・油揚げ)・酢の物(きゅうり・菊)・すまし汁

いわれ 各家に集まって先祖の供養をした。今では百万遍は公民館を会場に地域のコミュニケーションの場になっている。

9月〈長月〉

26日

送り彼岸



献立 団子

いわれ 仏様が団子をころがして極楽に帰る日で、団子は転がるように丸く丸くつくった。

旧暦の満月

十五夜さん



献立 栗・すいか・団子・ぶどう・枝豆・とうもろこし・きんか・りんご

いわれ 家で穫れたものや丸い物、すすきを縁側にあげてお月様を拝んだ。お月様は私たちの身代わりになって病んでくれたので尊様(とでさま)といって拝んだ。女の人は難産になると言われ、お供え物は食べられなかった。この日だけは、よその家の物を食べてもゆるされた。



10月〈神無月〉：秋の農繁期が始まる…

上旬

稲刈り

いわれ 稲刈りは結いっこではなく、各家々でやった。

下旬

刈りあげ



献立 刈りあげ餅 (小豆だんご等)、漬物

いわれ 稲の刈り物の終了で鎌取めとも言った。茅を刈って刈りあげとなった。茅ですみすごを編んだり、屋根のふきかえをした。



11月〈霜月〉：実りへの感謝と来年もと祈念する…

9日・19日

いなり様のはつくにち・なかくにち



献立 天ぷら (菊の花・しいたけ・かぼちゃ・さつまいも・人参・ごぼう・大葉)・油揚げ

いわれ 百姓の神様で、一年間の収穫に感謝し、来年の豊作もお願いをした。

11月〈霜月〉

24日

お太子さん(おだいしさん)



献立 うきうき団子・漬け物

いわれ お太子様の年取り。子どもがたくさんいて、貧乏なため早く春が来るように一ヶ月早く年をとらせた。塩を買いに出掛け、吹雪で凍死した事から、おでし荒れと言って、この日は必ず荒れた日になった。

29日

いなり様のすえくにち



献立 餅・天ぷら(菊の花・しいたけ・かぼちゃ・さつまいも・人参・ごぼう・大葉)・油揚げ

いわれ 苦をのがれると言って、「くにち餅は橋の下のほいども食う」といわれ、誰もが必ず餅を食べた。

おだの神様



献立 お供え・お頭付き魚(さんまなど)

いわれ 田の神様で、家々で収穫を終えた田んぼに感謝をした。神様は、くにち餅を蛙に背負わせて山に帰るといわれている。

下旬

庭払い(こきあげ)



献立 だらくれ餅・手打ちそば・とり肉汁・ぜんまいの油炒め・赤飯・煮豆(ささげ豆)・煮しめ(たけのこ・ふき・舞茸・わらび)・酢の物(切り干し大根)・漬け物(高菜)

いわれ 農家の一年間の仕事収めで、収穫に感謝する一番の御馳走。餅はとくに御馳走で、餅米がない時はくず米を粉にした。寒ざらし粉はとり粉にした。

窯祝い



献立 御頭付き魚二匹(いわしなど)

いわれ 炭焼き窯をつくった時、窯のはちが落ちない様に酒を神様にあげ、お祝いをした。また、無事に一山の炭焼きが終了できる事も願った。

12月〈師走〉：一年の恵みに感謝の心をこめて…

5日・10日

五日えびす・十日えびす



献立 餅・尾頭付魚(さばなど)

いわれ 福を呼ぶえびす様の年取りの日。

9日

だいこく様のお年取り



献立 団子・煮豆(青豆)・まっか大根

いわれ えびす大黒で福を呼ぶ神様。ご馳走に必ず青豆を入れた。手のまめ、足のまめが出来程よく働き、家に富と繁栄をもたらすという意味で豆料理が作られた。

まっか大根のいわれは、よくは解らないが、豆料理が多いので、腹ごなしの為に大根は添えた。

12日

山の神様のお年取り



献立 どぶろく・だらくれ餅(小豆・くるみ)・12のおぼこ(12個の餅)

いわれ 山仕事をする男衆が家に帰る日。山の神は女の神様のことで、怖い時の顔を山の神面子と言った。女の人は難産になるからと御馳走を食べられなかった。

22日

冬至



献立 冬至がゆ (小豆・かぼちゃ)・漬け物



いわれ 健康祈願。冬場のビタミン不足を解消した。冬至にかぼちゃを食べると、中風・脳溢血にならないと言った。

23日

じぞう様のお年取り



献立 団子・煮豆 (ささげ豆)

いわれ 子供を授かる神様と安産の神様。

27日

すすはき



献立 はらい餅 (小豆・くるみなど)

いわれ 家族全員で神棚からすす払いを始め、新しい年を迎える準備をした。

28日

餅つき



献立 お供え(神様・農具)・鏡餅・のし餅(おから・よもぎ)

いわれ 鏡餅は二升から一枚とり、5~6枚作って御年始のお土産にした。どの家でも新しい年を迎える心構えを大事にした。

31日

年取り



献立 お供え(神様)・白飯・酒・赤魚煮・煮しめ(ほたて・昆布・人参・ごぼう・こんにゃく・しいたけ・乾燥豆腐)・大根なます・ささぎ豆煮・黒豆煮・田づくり・ほたての吸い物・年越しそば

いわれ お供え二つ重ねを神様にあげる。ご馳走も神様にあげたが、御頭付きの生魚は2匹を腹合わせにしてあげた。門松はさんかひの松を夕方立てた。餅は次の日1月1日に食べた。

家族そろって全員で年取りをした。

あとがき

地域に暮らしてきた人々の笑顔や会話の中に、食べることは暮らすこと、そして何事もなかったように繰り返されてきた日々の暮らしが伝わってきます。

今回の聞き取り訪問で、赤飯と山菜のお重料理をつくり待っててくれたユキノさん、カヨさん。そして、ヤエさん、トミさんにはおがらや豆がら等を準備してもらい、寒さが身にしみるなか、小正月行事の田植えをしていただきました。

そのほか、沢山の皆様のご協力をいただき、豊作祈願や生活の知恵として受けつがれてきた貴重な行事を「しずくいしの行事と行事食」として整理し、発刊することができました。

厚くお礼を申し上げます。

平成 21 年 6 月

雫石町農業指導センター専門指導員
桐 山 桂 子

しずくいしの行事と行事食

発行者 雫石町産業振興課
雫石町農業指導センター
発行日 平成 21 年 6 月
住 所 〒020-0595
岩手県岩手郡雫石町千刈田 5-1
TEL.019-692-2111
印 刷 山口北州印刷株式会社

しずくいの
行事と行事食

雫石町産業振興課
雫石町農業指導センター